

Update the Value Standard

早川浩士
(有) ハヤカワプランニング
代表取締役

場当たりの判断の積み重ね

10月8日、新型コロナウイルス感染症への政府の取り組みを検証した有識者組織「新型コロナ対応・民間臨時調査会」が報告書を取りまとめ、会見を開いた。

席上、政府の半年間の対応を「場当たりの判断の積み重ねだっ」

みを外すという持論を開陳している。
これまでの社会や経済の仕組みのままでは立ちゆかないコロナ禍にあって、仕組みを変えるヒントとして「思考の枠を超える」ため示された「思枠（思考のフレームワーク）」の二文字に言い得て妙と膝を叩きつつ感得させられた。

た」と喝破し、「行政の要請に国民が常に自主的に協力してくれることを前提とした危機管理体制は重大な脆弱性を抱えている」ことや「多くの施策が戦略的に練られていなかったことから今後も危機管理がうまくいく保証はない」などと断じ、新型インフルエンザ対策特別措置法の見直し、感染症危機へ

の備えを行うことを提言した。場当たりの対義語は戦略的であり、角の立つ物言いに圭角が取る戦略はなかったようだ。
緊急事態宣言の発出前頃、自分の「思い込み」の外にある「アイデア」を見つける方法のサブタイトルに目が奪われて「思考の枠を超える」（日本実業出版社発行）

を手取る機会を得た。
著者・篠原信氏は、「私たちは何かしら行動に移ろうとするとき、思考の「枠組み」を無意識のうちに準備する。その「枠」と違う事態になると戸惑い、まさに「思惑（思ってたんと違う）」という字のとおりになってしまう」と考察し、思惑を思枠と捉えて思考の枠組

思惑を思枠と捉えて 思考の枠組みを外す

Profile

はやかわ・ひろし ● 経営コンサルタント。「継業と人材創造塾」主宰。『介護ビジョン』編集委員。介護福祉教育マスター。著書に『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』、『99の言葉の杖』（いずれも日本医療企画）、『介護保険改正に勝つ！ 経営』（年友企画）など。本誌にて『経営（継業）のツボ』を創刊から200回（16年8カ月）連載

URL www.hayakawa-planning.com

感染対策の手引き

10月1日、厚生労働省は新型コロナウイルス感染症に限らず、介護現場における感染症への対応力の向上を目的として、「介護現場における感染対策の手引き（※）」を公開した。
コロナ禍での日々の営みは、一歩間違えれば医療・介護崩壊のみ

ならず、経済破綻につながりかねないことを肝に銘じながら、あるべき感染対策の姿を共有する能力が一人ひとりに問われている。
自らの能力を高めるためにも能力を研ぎ澄ました人たちと切磋琢磨しながら良質なネットワークを構築し、互いに支え合える関係を築いてゆく、こうした取り組みを

誰もが行えることを希求する。
とはいえ、思惑が交錯して渦巻くこともある。まずは、自分の思い込みの外にあるアイデアを見つけることだ。
人生の禍福は変転として予測できないことをたどった「万事塞翁が馬」がある。予断を挟まず、新たな一年を心してかかりたい。